

異文化と 心通わせ

55



9月は夢を実現させた
人たちから久しぶりの便
りが届いた一ヶ月でした。
そのうちの一人、インド
ネシア人の男性について
紹介したいと思います。
彼に会ったのは200
3年。環境に関する研修
のため来日し11ヶ月間滞
在したときです。観察に
同行した際、彼は「博士
号を取得し専門家として
母国に貢献したい」とい
う夢を語ってくれました。
しかしながらそのため
には専門分野のある大学
へ最短でも3年間留学し
なければならぬこと。
費用や家族のことなどア
リアしなくてはいけない
けれども、彼は「Sensei」(先
生)というタイトルで
エッセー書いてくれま
くれました。研修を終え
帰国して半年が経過した
ころ、彼から一通のメー
ルが届きました。そこに
は日本への留学が決まり
たことが書かれてあります
した。

2004年10月、日
本で博士号を取るため

た。出来や
住むことにな
る。パートは
指導教官とな
る先生が手配
してくれまし
た。先生に会
うため、バス
や電車の乗り
方を教えても
らいながら天

をしたが
んでし
じで取
ぐいた
就へし
論文（
かのじ
限の先
シクし
した。生
り、下

先生の部屋へ
書類を渡すと、
田張などが一
瞬で驚いて、
返してくる。

田中清生の会員たなびた後5年たなびた後5年

本人は勤勉で、時間厳しく、尊敬し合ひ、深く規則正しい。

は常に私の心中にありました。一日12時間でも20時間でも研究のようでした。でもそれは日本人と共にして日本人に共通していふよつて思ひます。

私は博士号が本格的にもたらされたときまで、これまでの人生で最も恥ずかしいものがあつたと「やつなし」と書いてくれました。その言葉

で別人のように元気で親しみやすい人でした。いつも「学生は一生懸命やります」とそれが勉強というものです。勉強、勉強。24時間でもやつてなきい」と繰り返しました。そして国際会議に出席していくとき、ほんの少しでも疑問点が生ずると必ず強く反論しました。先生ほどの分野の第一人者でした。お酒が入ると元気になり、パーティーが終

ました。そして初めて私の先生に会いました。強い個性を持っていて頭がいい人という印象を持ちました。
teacherのことを日本語では先生と言います。先生はとても厳格な人です。先生は研究の方法についてとても厳しい人です。論文の書き方についても同じでした。その一

それが「良い」か「悪い」とか判断し、その理由を短く教えてくれました。私が特に質問したのは、「日本での年間の感想は?」と「どうがなければ私をそのまま放して先生は何も言わずに自分のへすくと戻りました。それは「早く彼」として先生と通じしく戻つて続きをやりなさい」ということを意味していました。また、必死に取り組んだところに大きな苦労だったのでしょう。先生は少しでも疑問をもつたらそのままで（西田由美子「一チハシ」）